



# 雪学習 指導案 [社会科]

雪学習とは、「雪」を楽しんだり（親雪）、「雪」を克服したりする活動を通じて、冬の暮らしに関心を持ち、除雪に対する意識が浸透することを目指した学習です。

## ■実施例

■実施校 札幌市立幌西小学校 ■実施学級 4年4組

■実施日 2019年12月10日（火）5校時 ■指導者 多田 公洋

■科目/単元名 社会科「自然災害からくらしを守る～雪とくらす～」[8時間扱い]

## 単元のねらい

- ・地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解する。【知識及び技能】
- ・過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現する。【思考力・判断力・表現力等】
- ・自然災害から人々を守る活動について、主体的に学習の問題を追究・解決する。【学びに向かう力・人間性等】

## 教材化のポイント

本実践では、新指導要領で加えられた『防災（雪害）に対する取り組み』を教材化した。首相官邸のHPによると雪害による災害は、全部で5つに分けられ、①雪崩による事故②除雪中の事故③車による雪道での事故④歩行者の雪道での事故⑤雪のレジャーでの事故となっている。

そこで、単元構成では札幌市における除排雪をベースにしなが、これらの災害の防止策や対応策について、自助・公助・共助という視点で展開する。

単元の導入で、北海道における災害を取り扱い、そこから雪害による被害に焦点化していく。そのような展開によって、単元を貫く課題「雪害からくらしをまもるために、だれがどのようなことをしているのだろう。」を生む。学習の見通しをもてるようにすることで、子どもが安心して学び続けることができる。

本時では、ウィンターライフ推進協議会が行っている「つるつる予報」を扱う。雪国札幌で生活する子どもたちにとって、一見必要ないような情報がどのように事故防止に役に立っているかを考えることで、雪害は歩行者の転倒を含み、身近な災害であることを気付くことができる考えた。

## 教師のかかわりのポイント

### 【つるつる予報と転倒事故グラフの関連付け】

社会科では、グラフの読み取りを行い、その社会的事象の意図や根拠を考える力を培う。本時では、つるつる予報が発表されている事実と転倒事故数のグラフとを関連付けながら、どんなことが起きているかを考える。それを全体交流で友達と対話することで、交通事故を防ぐための道路除雪だけでなく、歩行者の転倒事故を防ぐ手立ても関係機関が発信していることに気付くようにする。

### 【追究を確かにする資料提示】

授業の中盤では、永田さんの開発の意図を提示する。それは、追究を机上の空論で終わらせることなく、確かな事実を提示し、子どもの学びを深めるためである。

### 【本時の学びを自覚化】

深い学びを生むためには、自分の学びを自覚化することが大切である。どんな変容が生まれたのか、どんなことがわかったのかという内容的なことであったり、どんなことからわかるようになったのかという学び方であったりを自覚させる場を確保することで、深い学びが生まれ、学びを確かにすることができるはずである。

# 学習活動計画 [8 時間扱い 本時 (6/8)]

時	主な学習活動	学習のポイント
1	<p>私たちの北海道にはどんな災害があるのか？</p> <p>地震・津波・地滑り・大雪・火山噴火など災害が発生している</p>	○北海道の自然災害について災害年表（資料）を用いて学習する。
2	<p>札幌市の雪による災害（雪害）がどのようなものがあるだろう？</p> <p>雪害から暮らしを守るために、だれがどのようなことをしているのだろう。</p> <p>雪崩や除雪中の事故、自動車事故や歩行者の事故、雪のレジャーでの事故がある</p>	○「雪害」の5つの定義を押しさえる。 ①雪崩による事故 ②除雪中の事故 ③車による雪道での事故 ④歩行者の雪道での事故 ⑤雪のレジャーでの事故
3	<p>札幌市では雪による災害（雪害）をどのように防いでいるのだろう？</p> <p>&lt;公助&gt;</p> <p>除排雪の計画・実施（国・道・市）</p>	○子どもたちに身近である雪道での事故を防ぐための「除排雪」の仕組みについて学習する。
4	<p>雪崩の予防策・注意報警報（市・道・气象台）</p> <p>大雪にかかわる事故対策（自衛隊・消防・警察）</p>	○地方自治体だけでなく、関係機関も雪害を防ぐために連携・協力していることを学習する。
5	<p>札幌市は、雪対策室や气象台、消防、警察、自衛隊、ウインターライフ推進協議会などが協力して雪害を防いでいる</p>	
6 本 時	<p>つるつる予報、滑らない歩き方の情報提供（市）</p>	○雪害の定義④「歩行者の雪道での事故」を防ぐために、札幌市は情報提供を行っていることについて学習する。
7	<p>雪による被害や事故を減らすために、地域の人たちはどのようなことをしているのかな？&lt;自助・共助&gt;</p> <p>各家庭で雪かき（間口除雪）をしたり、町内会で砂まき・パートナーシップ除雪、福祉除雪などを行ったりしている。</p>	○公助による雪害の防止だけでなく、自助や共助による減災や防災があることを学習する。
8	<p>雪害を防ぐための工夫をまとめよう</p> <p>様々な機関が雪害対策を行い、公助・自助・共助で災害を防いでいる</p>	○単元の終末として、雪害を防ぐための様々な取組をまとめる。

# 本時の目標と学習活動

## ●本時の目標

札幌市は、交通事故を防ぐための雪対策だけでなく、歩行者の転倒事故を防ぐための取組もやっている。

## ●本時の展開 (6/8)

### 子どもの意識と主な学習活動

### 教師の意図と関わり

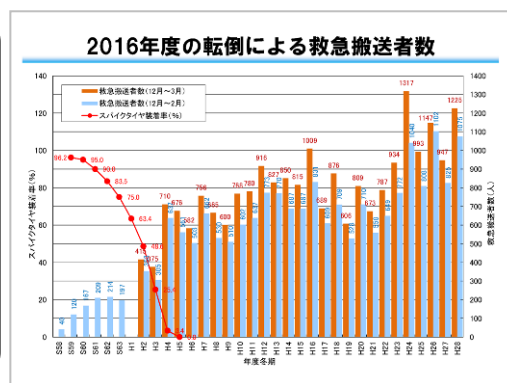
積雪が多い北海道では、国・道・市などが除排雪を計画的に行ったり、気象台が注意報や警報などを出したりして、雪害を防ごうとしている。また、災害が起きた時には、自衛隊や消防など、様々な機関が協力して減災に取り組んでいる。

■たくさんの雪が降る札幌で生活しているが、除雪によって雪害にならずに済んでいる。

- 除雪によって雪害が防げていることを確認する。
- 雪害を防いでいるのに、つるつる予報を発表していることを提示し、その意味について問題意識を醸成する。

永田さんはどうして「つるつる予報」を出しているのだろう？

- 路面が滑ることによって事故やけがが起きるから
- 歩行者の事故が増えているから
- テレビなどで知らせることで防ぐことができるから
- どんな時に滑るのが分かってきたから



- グラフと社会的事象(つるつる予報)との関係性から、わかることを考える。【相互関係的な見方考え方を働かせる】

【関連付け】

■永田さんの「つるつる予報」開発の意図を知る。

歩行者の転倒事故が増えていたので、それを解決しようと研究を重ね、その結果、つるつる予報を開発しました。



歩道や横断歩道は滑って、けがをする人がいるから歩行者のためにも情報を発表している。

実は、雪が多い北海道だけでなく、全国から問い合わせが来るんです。



■雪が少ない地域からの問い合わせは、どんな時に来るのかを考える。

- 新たな事実の提示により、永田さんの営みは、雪国だけでなく、全国の減災に役に立っていることがわかるようにする。

【空間的な見方考え方を働かせる】

雪が少ない地域は、雪道に慣れていない

ちょっとした雪でも大きな災害となる。

■永田さんは「つるつる予報」のほかにも、「滑らない歩き方」の情報提供もしていることを知る。

- 「雪害を防ぐことと関係は？」「雪害を防ぐことと全然関係していないでしょ？」と切り返すことで、雪害は降雪量とは直接関係がないことがわかる。

【相互関係的な見方考え方を働かせる】

・【問い直し】

小さな事故やけがを減らすことも大切なこと

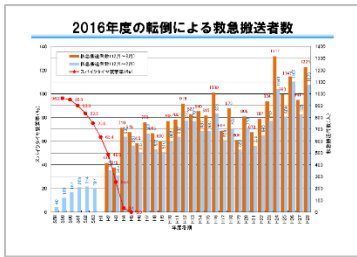
雪害を防ぐためには、こういう情報も大切

■本時のふりかえりを記入する。

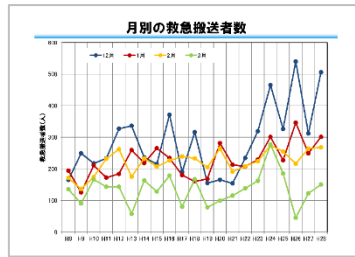


# 本時で活用する資料と本時の様子

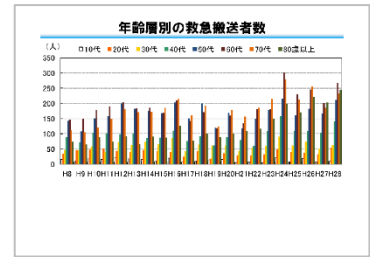
## ○活用した資料



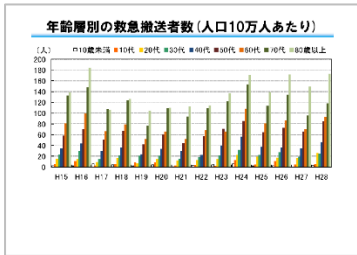
2016年度の転倒による救急搬送車数



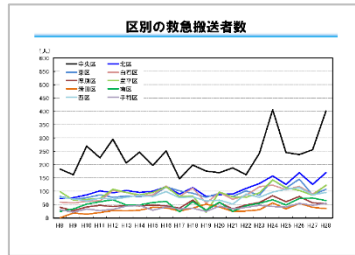
月別の救急搬送者数



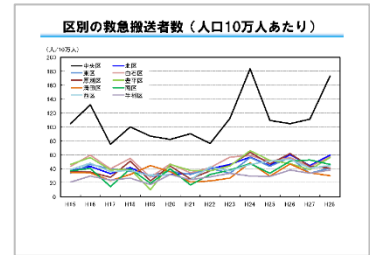
年齢層別の救急搬送者数



年齢層別の救急搬送者数(人口10万人あたり)



区別の救急搬送者数



区別の救急搬送者数(人口10万人あたり)



つるつる予報開発理由



すべらない歩き方

北海道の災害年表

この表は、北海道の災害年表を示しています。縦軸は「年」で1945年から2015年まで表示されています。横軸は「災害の種類」で地震、台風、大雪、豪雨、洪水、津波、火山、その他と表示されています。各年ごとに発生した災害の種類と規模が記載されています。

北海道の災害年表

## ●本時の様子



## [本時の板書]

